令和７年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選大会展望

文:中島　洋己
（（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和７年度全国高校総体静岡県予選が令和７年５月 24 日に開幕する。地区予選を勝ち抜いた男女各 32 校が初日に 1,2 回戦、翌 25 日に準々決勝を行い、6 月 7 日に袋井市・**エコパアリーナ**にて準決勝と５位決定トーナメント､8 日に同じくエコパで決勝戦と各順位決定戦が行われる。優勝校は７月 27 日に岡山県岡山市・**ジップアリーナ岡山**および**岡山市総合文化体育館**で開幕する**全国高校総体**へ、上位 3 校が６月 21,22 日に三重県四日市市・**四日市市総合体育館**と**四日市市中央第２体育館**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は岐阜県がその特権を生かし、美濃加茂・岐阜女子が東海総体優勝でまずプラスワン、そして両チームがインハイで決勝に進みさらにプラスワン、男女ともに男女各３チームがウインターに出場するという歴史的快挙を遂げた。その反面、長年男女とも複数チームが出場していた愛知県は男女とも１枠の出場権となり今年はその雪辱に燃えて、静岡・愛知・岐阜の三つ巴の争いとなるだろう。どの県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、増枠を狙うためには静岡県もより強いチームを東海総体に送り込み､ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担ってもらいたい。なお、ウインター出場枠が２枠になった場合、県予選は**決勝リーグ制**、３枠になった場合はトーナメント制に付随して**３位決定戦**を行うことが決まっている。

加えて、この大会は**全日本選手権（オールジャパン:天皇杯・皇后杯）**の出場選考も兼ねている。上位２チームが８月に**静岡県武道館**で行われる**静岡県予選**の出場権を優先的に獲得(繰上対象は４位まで)、県予選上位 2 チームが 11 月に愛知県で行われる**東海ブロック予選**にも出場できる｡東海優勝チームのみがオールジャパンに出場といういばらの道ではあるが､最終的には｢バスケの聖地｣**代々木第一・第二体育館**でのプレーにつながることは選手のモチベーションを高めるに間違いない。さらに県総体優勝チームには８月に開催される「**U18 日清食品ブロックリーグ**」への出場権が与えられる。このリーグ戦は今年で４年目となり昨年まで静岡県勢は「**U18 日清食品東海ブロックリーグ**」に所属して 2 ヶ月に渡り東海 4 県の強豪としのぎを削り合い昨年は初めて静岡県でも開催された。今年からレギュレーションが大幅に変更され、基本的に各都道府県枠が「1｣、チーム登録数の多い 9 都道府県に「プラス 1｣、前年度優勝チームを輩出した都道府県に「プラス 1｣、さらに「参入戦」なども開催可能になり、昨年は男子のみに導入された**B.LEAGUE・U18 下部組織**の参入や、クラブチームの出場機会も創出され部活とクラブの垣根を超えた環境作りが整ったと言える｡普段決して交わることのないクラブチームとの対戦は何事にも代えられない貴重な経験となるはずだ｡ただ今年度に関して静岡県は男女とも出場枠が２枠から「1 枠」に減少した事実は本当に残念でならない。さらに、ブロックも東海・関東・北信越などの９エリアをベースに８グループに再編成、他ブロックとの対戦機会も創り出された。静岡県は男女とも愛知･岐阜･三重の東海勢に加え東京･神奈川の代表と同グループ、加えて男子は栃木･山梨の関東勢、女子は茨城･岩手と同グループとなり全国大会でないと対戦出来ないチームとの対戦も可能になった。なお、昨年・一昨年と藤枝明誠が出場した「**U18 日清食品トップリーグ**」はすでに前年度上位４校の出場が決まっていて､残りの４校はインハイや各ブロック総体の成績

をポイント換算して後日発表される。インハイ・ウインターと並び、「**新・高校三冠**」と称される大会への推薦出場も選手たちには大いなる励みとなる。先日ベルテックス静岡の試合でこけら落としされたばかりの**北里アリーナ富士（富士市総合体育館）**で10月にトップリーグが県内初開催される予定になっている。本県チームがトップリーグに選出された場合、県総体準優勝チームが繰り上がりでブロックリーグに推薦されることになるので、各チーム１つでも上の順位を貪欲に狙ってもらいたい。

また、今大会から県総体でも「**7位決定戦**」が導入されることとなった。今年の県新人で初めて導入され、静岡学園-韮山戦、静岡東-静岡商業戦ともに白熱した戦いを演じて実施が成功であることを証明してくれた。県総体の順位はウインター県予選のシード順に大きく影響し、地区予選を経る県新人・県総体では「地区」に割り振られるのに対し、地区予選のないウインター県予選では「該当チーム」にそのまま割り当てられ、さらに完全トーナメント制で行われるため決勝まで第１シードとの対戦を回避することができる。もちろんそのようなネガティブ思考では優勝などは絵空事、他にも強豪チームがひしめき合っていることは事実であるが、少しでも有利な展開で結果を求めているロジックでは、この７位決定戦が「単なる１試合」に終わらない重要な一戦になることは間違いない。

さらに、この大会の地区予選から**県協会公式アプリ「静岡バスケ」**を正式導入されている。開発企業の**（株）ookami** のご協力のもと県新人で試行運用を行いおおむね好評を得て、その後県協会の理事会で時間をかけて吟味し、さまざまな建設的な意見をいただき持続可能なアプリ運用を継続するための運営組織を立ち上げ、今年度から全種別で正式運用することとなった。すでに地区予選でも予選リーグから全会場全試合の結果配信を行い、ホームページから情報を探るだけでなくアプリから情報を送るスタイルも定着しつつあると自負している。もちろんこの県総体でも運用を続けるが、まだ「アプリ元年」、情報発信する側も試行錯誤での運用開始となり、皆様には暖かい目で運営を見守っていただきご支援を賜りたい。加えて会場主任の先生方も事前準備にひと手間かけてしまうことに心苦しい思いではあるが、「新しいスタイルの情報発信システム」と捉えていただきご協力お願い申し上げたい。なお、最終結果や正式記録は従来通りＨＰ掲載のものとご解釈いただきたい。

【男子】

今大会も県新人３連覇、東海新人でも圧倒的な強さで２年ぶりの優勝を遂げた**藤枝明誠**の強さが群を抜き独走態勢に拍車がかかる予感もするが、東海新人に出場した**浜松開誠館**や**浜松学院興誠**、そして中部新人４連覇から県新人初の４強入りを果たした**静岡商業**や上位校の**沼津中央・城南静岡・静岡学園・韮山・浜松西・浜松商業**などが優勝争いに絡むとともに東海総体出場権を賭けた熾烈なバトルが展開されるであろう。

【女子】

こちらは現在大会９連覇中、３大大会も25連覇を継続中、東海新人でも４強入りした**浜松開誠館**が頭一つ抜けている感はあるが、東海新人に出場して共に勝利を挙げた**浜松南**や**市立沼津**、県新人で浜松開誠館の連勝を165で止める「世紀の番狂わせ」を演じた**東海大静岡翔洋**に加え、その翔洋を中部総体決勝で下し中部王者となった**常葉大常葉**、その常葉とオーバータイムの熱戦で演じて見事勝利、県５位を勝ち取った**浜松学院興誠**など県新人上位６チームを中心としたここ数年にない群雄割拠と言える展開も十分に予想される。